

毎月15日は川崎市民地震防災デーです。

# そなえる

みんなで守れば、きっと大丈夫。

もしも今、私たちの住むこの街が地震に襲われたら。  
電話は通じなくなり、道路は通行不能、水道管の破損による断水  
そして、停電で電気も消えてしまったなら…。  
こうした状況で、さらに大きな火災が発生した場合、  
消防隊の活動は大きく制限され、救急車も日頃のように活動できません。  
そんな時に、重要な役割を果たすのが〔自主防災組織〕です。  
〔自主防災組織〕は、行政の応急活動に先がけて  
災害に対して地域の皆さまが力を合わせて立ち向かうための組織で  
災害直後のさまざまな状況に対応するものです。  
自分たちの街を、自分たち自身で守るためには  
〔自主防災組織〕の活動を充実させることが  
とても大きな意味を持っているのです。

1991

NO.75

かわさき防災広報紙

1991年(平成3年)10月21日 発行  
発行所 川崎市  
編集所 土木局防災対策室  
〒210川崎市川崎区宮本町1番地  
TEL. (044)200-2111内線2841

備える

川崎市では、地域における防災活動の推進を図るために、町内会・自治会等を母体とした自主防災組織の結成を推進し、活動のための助成を行っています。

illustration Shuro Taniguchi

# 「自分たちの街を、自分たちで守る」ために災害への備えは、いつも忘れずに。

去る9月1日「防災の日」を中心とする防災週間中（8月30日～9月5日）、「家族総出の防災訓練」をテーマに、市民の皆さん・防災関係機関など約22,000人が参加のもと、第12回六都県市（東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県・横浜市・川崎市）合同防災訓練が実施されました。



河原町団地訓練

訓練会場は、多摩川河川敷・川崎駅前・河原町団地・そしてメイン会場である新川崎会場（幸区新鶴見操車場跡地）の4カ所。最高気温32度という暑さの中、参加者の皆さんは、汗だくになりながらも、本番さながらの訓練に真剣に取り組んでいました。

## 「防災の日」 本番さながらの訓練22,000人参加



高層建築物対策訓練

メイン会場である新川崎会場では、海部内閣総理大臣を団長とする政府調査団の視察の中、市内全域から自主防災組織を中心とした多くの方々の参加を得て、消防・警察などのヘリコプター12機、車両計140台余りと、人員・物量面ともに大規模な訓練となりました。

また、訓練に先がけて開かれたアトラクションには、タレントのアグネス・チャンがゲストとして招かれ、歌とトークを交えたショーを1時間にわたって披露。家族連れの方も多く参加したこの日の訓練、彼女を少しでも近くで見ようとする子供たちが、職員の制止を振りきり、ステージ前に殺到するといった一幕も見られました。

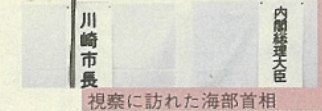
午後零時15分訓練開始。八相模トラフ沿いを震源とする大地震が南関東地域に発生。市内各地で、家屋倒壊・道路陥没・火災が起き、また、交通機関・電気・水道・ガス・電話といったライフライン施設にも大きな被害が出ている。この訓練想定。救出救助、消火、負傷者への応急救護、ライフラインの復旧作業など、様々な二次災害に対応した訓練が次々と展開されました。

自主防災組織・消防団活動訓練では、実際に幸区の自主防災組織の皆さんが、避難誘導・初期消火・救出救助といった活動を行い、災害時には地域における横のつながりが重要であることをアピールするとともに、防災行動力の強化と意識の高揚に、多くの成果を上げているようでした。

地震はいつ起こるか分かりません。私たちは、いつ、どこで地震が起きても大丈夫なように、繰り返しこのような訓練を積み重ね、万全を期する必要があります。そのためには、「自分たちの街は、自分たちで守る」を合言葉にまず家族や隣近所、そして町内等身近なところから防災対策を積極的に進めていきたいと思います。



自主防災組織出動



視察に訪れた海部首相

### 火災予防運動が始まります



11月9日から11月15日までの1週間、秋の全国火災予防運動が行われ、消防訓練や防火パレードなどの行事が市内各所で行われますので、ふるって参加してください。

皆さんも次の「火の用心7つのポイント」を励行し、火災予防にご協力ください。

#### 「毎日火の元警報発令中」

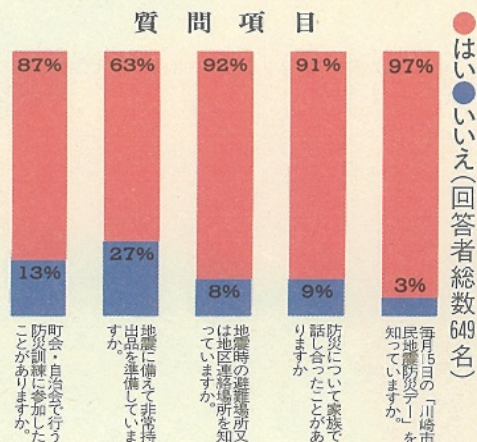
- ・家のまわりに燃えやすいものを置かない。
- ・寝タバコやタバコの投げ捨てをしない。
- ・天ぷらを揚げるときは、その場をはなれない。
- ・子供は、マッチやライターで遊ばせない。
- ・ストーブには、燃えやすいものを近づけない。
- ・ふろの空だきをしない。
- ・風の強いときは、たき火をしない。

### 防災アンケート集計結果

防災対策室では、防災週間中、防災行政無線戸別受信機を設置されている方々を対象として、防災についてのアンケートを実施しました。多数の方に御協力をいただきました。ありがとうございます。

結果がまとまりましたので、お知らせいたします。さて、みなさんはいかがでしたか？アンケートの集計結果を見ますと、非常持出品を準備している方の割合が低いように見受けられます。この機会に皆さんも災害時に備え、3日分程度の食糧や、飲料水等の非常持出品の準備をおこなしましょう。

今後このような企画を続けてまいりますので、よろしく願っています。



川崎市では、防災行政無線を通じて、市民の皆さんに、地震情報や気象警報など防災関連情報をお知らせします。

現在、屋外受信機を、避難場所・急傾斜地・駅前等に130箇所、戸別受信機を教育・福祉施設、自主防災組織の代表者のお宅などを中心に1,885箇所設置しています。

### ライフラインを確保する

水道、電気、ガス、電話。これらの生活を支える、これら公共サービスの供給がストップしたら一体どうなるでしょうか？私たちの生命線ともいえるこれらの公共サービスを、我々は防災対策の視点から「ライフライン」と呼んでいます。

- 水**：飲料水のみおきをする  
：臨時給水栓の設置場所を確認しておく
- 電気**：トランジスタラジオ・懐中電灯・電池・ロウソク等を備えておく
- ガス**：非常用の燃料を備えておく（都市ガス）  
：ボンベが倒れないように、くさり等でしっかり固定する（プロパンガス）
- 電話**：非常時の家族の連絡場所を確認しておく  
※保管には十分な注意が必要です。

